

米病院船Mercyから学ぶ『日米災害医療人材育セミナー&トレーニング』案

患者搬送イメージ



(陸自ヘリ)



(警視庁ヘリ)



(東京消防庁ヘリ)



(ドクターヘリ)

①多数外傷患者の搬送 ②CBRNE(シーバーン)災害想定、化学 (chemical)・生物 (biological)・放射性物質 (radiological)・核 (nuclear)・爆発物 (explosive) の被害患者の搬送



着艦・発艦ナビゲーション・コミュニケーション等を学ぶ

Hospital Ship, US Navy USNS Mercy (T-AH-19)



International Joint Practice Seminar



セミナー会場：マーシー船内



Pandemic block

「イメージ日米災害医療人材育セミナー&トレーニング(案)」

米病院船Mercyから学ぶ『病院船実現のための拡大シンポジウム』(案)

* 別紙1-2

コンセプト～実現にむけたコア人材による戦略策定～

～3つの分科会で学び・分析し・足らざるところをまとめシンポジウムに於いて提言

* 3班統括監督: 山本保博(日本医科大学名誉教授)

①病院としての能力を学ぶ 班長(候補者審査の後に決定)

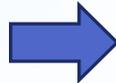
診療能力(ER・OR・CU・病床)
療養環境評価
備蓄・ライフライン



医師
看護師 薬剤師 ME
病院管理部門
病院経営担当部門 など

②平時の機能と応用の可能性を学ぶ 班長:(候補者審査の後に決定)

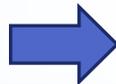
定点病院としての機能
巡回病院としての機能
その他の機能と応用



医療政策専門家
医療経済専門家
離島行政(東京都 他)

③災害^{注)}時の機能と応用の可能性を学ぶ 班長:(候補者審査の後に決定)

具体的な行動シミュレーション
被災地派遣の戦略
搬出拠点・中継地



人間工学専門家
災害分析専門家
国の防災専門家
厚生労働省行政専門家

- 1) 各班20名を定員として、各々のテーマの観点から見学計画を立案し、班ごとに取りまとめる。
- 2) 艦内では、提出された計画書に基づき必要箇所の見学を行い、米側案内者とも積極的な意見交換を行う。
- 3) 見学終了後には、直ちに班内で討論を行い、わが国の病院船に反映されるべきこと、あるいは修正されるべきことを明確にし、わが国の病院船実現にむけた、当該テーマに関するコンセプト・ペーパーをまとめる。
- 4) 翌日、各班の代表者による発表の機会を設け、日米関係者を交えた公開シンポジウム(メディア対応)を開催する。

注) 災害の想定には、首都直下地震、①多数外傷患者の搬送 オリパラ想定テロ②CBRNE(シーバーン)災害被害者の搬送、化学(chemical)・生物(biological)・放射性物質(radiological)・核(nuclear)・爆発物(explosive)それぞれの専門家の参画を促す。